

I C T活用工事（土工 1,000m<sup>3</sup>未満）積算要領

## 1. 適用範囲

本資料は、以下に示す土工量1,000m<sup>3</sup>未満の I C Tによる土工（以下、土工（I C T）（1,000m<sup>3</sup>未満））に適用する。

## 2. 機械経費

## 2-1 機械経費

土工（I C T）（1,000m<sup>3</sup>未満）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

①土工 1,000m<sup>3</sup>未満（I C T）

I C T建設機械名	規格	機械経費	備考
I C Tバックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3次基準値）、 山積0.45m <sup>3</sup> （平積0.35m <sup>3</sup> ）	損料にて計上	ICT 建設機械経費 加算額は別途計上

## 2-2 I C T建設機械経費加算額

## 2-2-1 損料加算額

I C T建設機械経費損料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する I C T建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

（1）土工 1,000m<sup>3</sup>未満（I C T）

対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型）

加算額：5,470円／日

## 2-3 その他

I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

## 2-3-1 保守点検

I C T建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

（1）土工 1,000m<sup>3</sup>未満（I C T）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m}^3\text{)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m}^3\text{/日)}}$$

（注）作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT標準作業量による。

（注）施工数量は、ICT施工の数量とする。

## 2-3-2 システム初期費

I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

土工 1,000m<sup>3</sup>未満（I C T）

対象建設機械：バックホウ

費用：I C T 建設機械経費損料加算額に含む

## 3. 3次元設計データの作成費用

3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

## 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

## 5. 積算方法

受注者からの提案・協議によりI C T 施工を実施した場合は、「[I C T 建設機械使用割合100%]」を用いて積算するものとする。

## 【参考】

### 1. 施工歩掛

#### (1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

#### (2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表1.1 土質区分

土 質 名	分 類 土 質 名
レキ質土、砂利混り土、レキ	レキ質土
砂	砂
砂質土、普通度、砂質ローム	砂質土
粘土、粘性土、シルト質ローム、砂質粘性土、粘土質ローム火山灰質粘性土、有機質土	粘性土
岩塊・玉石混り土、破碎岩	岩塊・玉石

## 1-1 オープンカット（バックホウ掘削）

### （1）日当り施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。

表1.2 オープンカット（バックホウ掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名 称	土質名	規格	単位	数量	
					障害なし	障害あり
オイーブ カット 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ （クローラ型） 運転	レキ質土・ 砂・砂質 土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	169	83
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	〃	129	64

## 1-2 片切掘削

### （1）日当り施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする。

表1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名 称	土質名	規格	単位	数量
片切掘削 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ （クローラ型） 運転	レキ質土・ 砂・砂質 土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	164

（注） 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。

なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

2. 上表にクレーン作業は含まない。

### （2）人力掘削歩掛

片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

表1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m<sup>3</sup> 当り）

名 称	土 質 名	単位	数量
普 通 作 業 員	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	人	3.9

（注） 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。

なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

## 2. 単価表

### (1) オープンカット（バックホウ掘削）100m<sup>3</sup>当り単価表

名 称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表4.2
諸雑費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

### (2) 片切掘削（人力併用機械掘削）100m<sup>3</sup> 当り単価表

名 称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表4.4
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表4.2
諸雑費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

### (3) 機械運転単価表

名 称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型) (オープンカット)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ 48 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ 48 機械損料数量→1.33